

令和 7 年度

全国学力・学習状況調査

＝留萌市における調査結果の概要＝

I	調査の概要	1 P
II	教科調査結果の概要	3 P
III	児童生徒質問紙調査結果の概要	19 P
IV	学校質問紙調査結果の概要	24 P
V	おわりに	27 P

令和 7 年 9 月

留 萌 市 教 育 委 員 会

I 調査の概要

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査の内容

(1) 児童生徒に対する調査

① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等

イ 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 等

※上記のアとイを一体的に問う調査問題

ウ 中学校理科は、ICT端末を用いたオンライン方式

② 学習や生活の諸側面等に関する質問紙調査

・学習意欲、学習方法、学習習慣、生活習慣 等

(2) 学校に対する質問紙調査

・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況 等

4 調査実施日

令和7年4月15日（火）・17日（木）

5 調査を実施した学校・児童生徒数

	小 学 校		中 学 校	
	実施学校数	児 童 数	実施学校数	生 徒 数
全 国(公立)	18,289 校	936,576 人	9,291 校	871,097 人
北海道(公立)	917 校	34,220 人	557 校	33,474 人
留 萌 市	5 校	95 人 (算数は94人)	2 校	101 人 (理科は102人)

※実施学校数・児童生徒数は、「令和7年度 調査結果のポイント（北海道教育委員会）」による。

6 調査結果の解釈等に関する留意事項

- (1) 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- (2) 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

7 IRT方式による調査

(1) IRT方式とは

IRT（項目反応理論）は、テストにおいて「問題の難易度」や「受験者の能力」をより正確に測定するための統計的手法である。従来の「正答数」だけで評価する方法（クラシカル・テスト理論）よりも高度な分析が可能である。

(2) 全国学力・学習状況調査におけるIRT方式の特徴（中学校理科）

①問題ごとの特性を数値化

・各問題には「難易度」や「識別力（能力差を見分ける力）」などの特性値が設定される。

- ・同じ問題でも、正解するかどうかの「重み」が異なる形で評価される。
- ②生徒の能力をスケール上で推測
 - ・受験者がどの問題に正答したかを基に、その人の「理科に関する能力値」を推定する。
 - ・能力値は、能力が高いほど大きな値となる。
- ③問題の構成
 - ・生徒1人当たり、公開問題と非公開問題が出題される。
 - ・公開問題には全日程に共通する問題と実施日別の問題がある。
 - ・非公開問題は幅広い内容・難易度等から出題され、生徒ごとに異なる問題を解く。
- (3) IRTを使うと何ができるのか
 - ・同じ正答数でも「難しい問題に正解した生徒」の方が高い能力値とみなされる。
 - ・問題ごとの難易度が考慮されるため、成績の信頼性が向上する。
- (4) IRTを使う理由

理科は、知識・技能・思考力など多様な側面を含む科目で、単純に「○×」だけでは学力の本質は捉えにくい側面がある。IRT方式を使うことで、問題ごとの特徴や受験者の反応を基に、より正確に「どのような力がどの程度あるのか」を把握できる。

8 調査用語

(1) 標準偏差

標準偏差は、データが平均からどれだけ散らばっているかを示す統計量である。数値が大きいほど、データは平均から大きく離れており、ばらつきが大きいことを意味する。逆に、数値が小さいほど、データは平均に近く、ばらつきが小さいことを意味する。

(2) ウェルビーイング

- ・身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念
- ・多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む概念

《備考》

※全国平均との差に関する表現について

・7%以上		相当高い	相当低い
・5%以上	7%未満	高い	低い
・3%以上	5%未満	やや高い	やや低い

※文部科学省は平均正答率について、整数値で公表しているが、留萌市では、進めてきた指導改善の成果を検証するため、従来のデータと整合性をもたせた分析が必要と判断し、提供されたデータをもとに独自に算出した小数値で示している。

Ⅱ 教科調査結果の概要

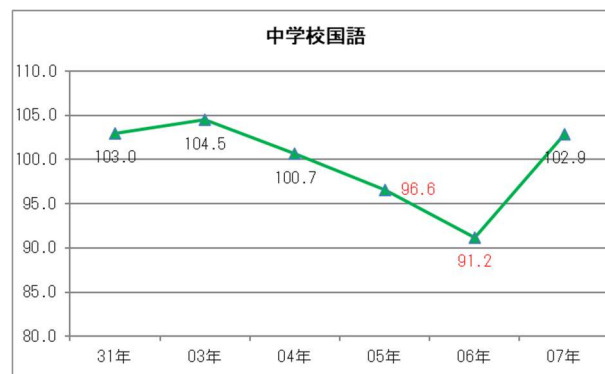
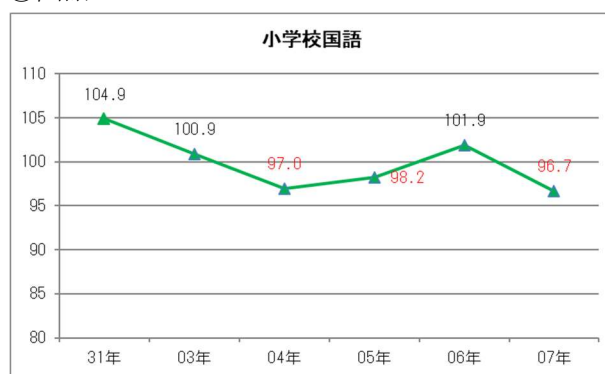
1 平均正答率から見る学力の状況

(1) 令和7年度各教科の平均正答率(%)と全国・北海道との差

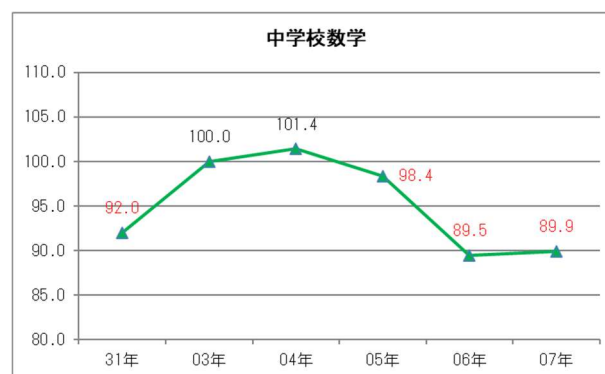
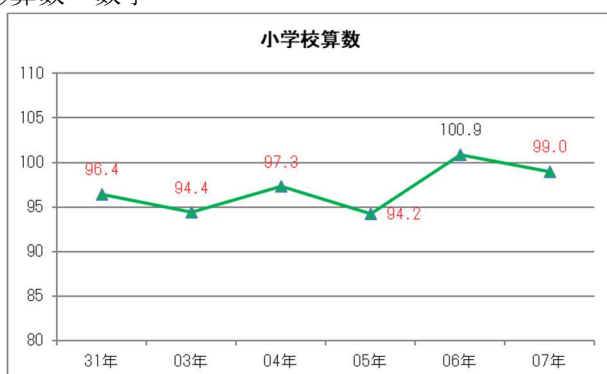
	小 学 校			中 学 校		
	国 語	算 数	理 科	国 語	数 学	理 科
留 萌 市	64.6	57.4	58.9	55.9	43.4	49.3
北 海 道	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	50.5
全 国	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	50.3
北海道との差	- 0.8	+ 2.2	+ 2.6	+ 1.9	- 3.3	- 1.2
全国との差	- 2.2	- 0.6	+ 1.8	+ 1.6	- 4.9	- 1.0

(2) 全国の平均正答率を100としたときの留萌市の平均正答率の推移

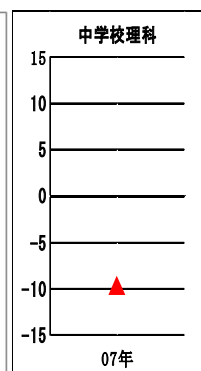
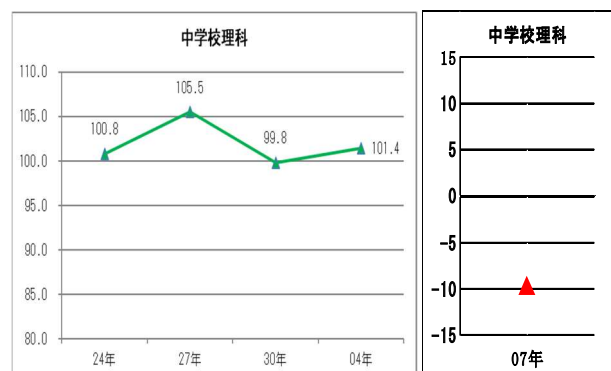
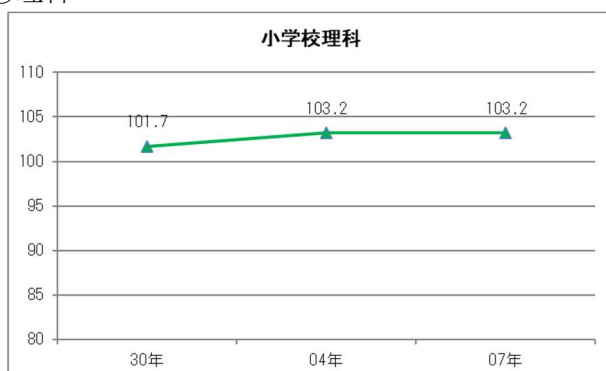
①国語



②算数・数学



③理科

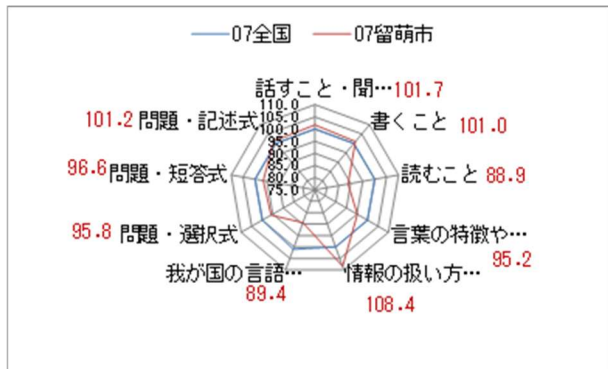


※07年より、中学校理科はIRT方式

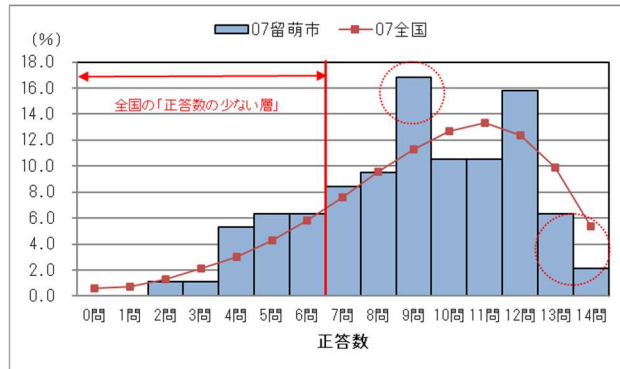
2 小学校国語

	平均正答数	平均正答率
留萌市	9.0問／14問	64.6%
北海道	9.2問／14問	65.4%
全国	9.4問／14問	66.8%

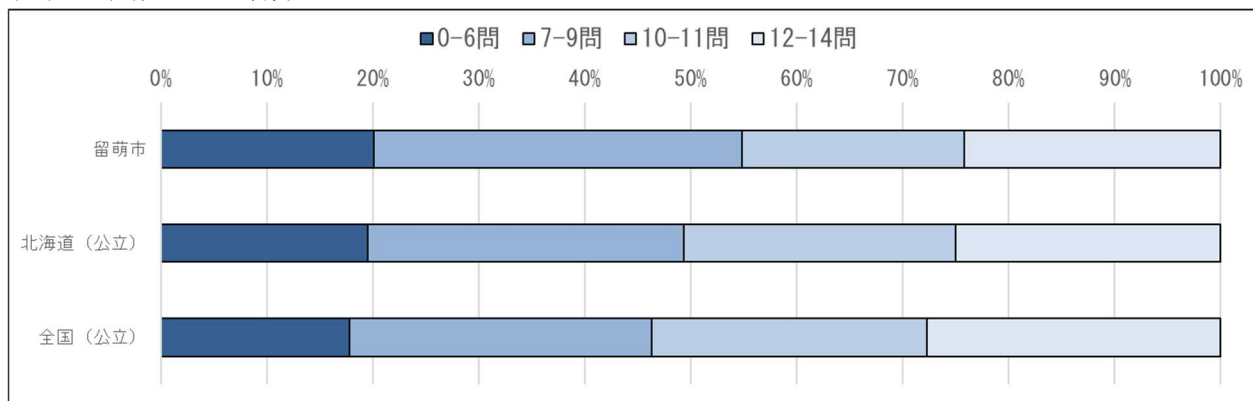
(1) 領域別の平均正答率～全国を100とする



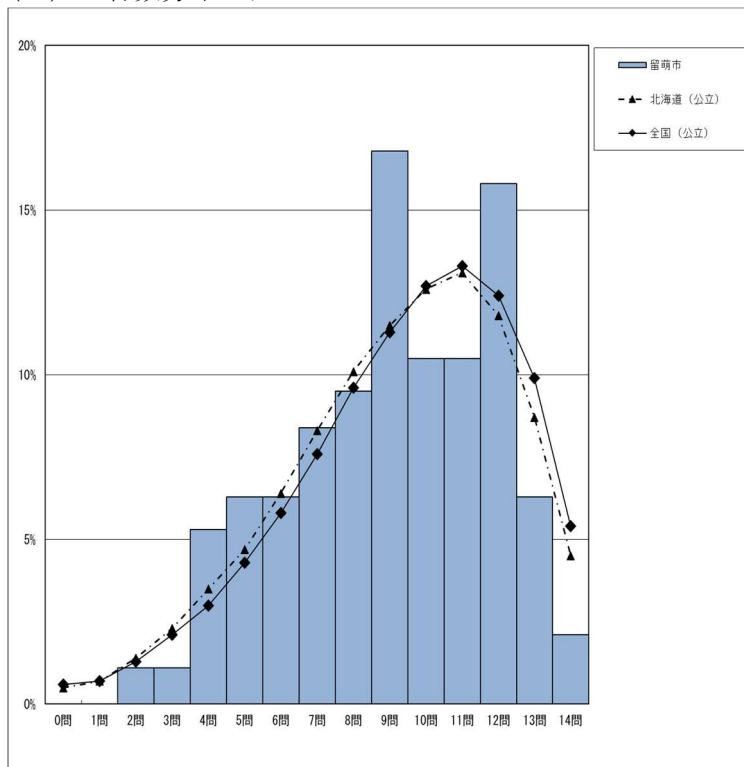
(2) 正答数分布グラフ



(3) 正答数ごとの層分布



(4) 正答数分布グラフ



(1) 領域別の平均正答率

◆「読むこと」の領域で、全国と比べて相当低い。

◆記述式の問題は、全国と同程度で、短答式と選択式の問題は、全国と比べてやや低い。

(2) 正答数分布グラフ

◆14問中、正答数が9問と児童数の割合は、全国と比べて高く、13問と14問の児童数の割合が、全国と比べてやや低い。

(3) 正答数ごとの層分布

◆正答数が、7問～9問の児童数の割合は、全国と比べて高く、10問～14問の児童数の割合は、全国やと比べて相当低い。

(4) 正答数分布グラフ

◆正答数が、9問の児童数の割合は、全国や北海道と比べて高く、13問と14問の児童数の割合は、全国と比べてやや低い。

(5) 設問別の正答率の概要

※平均正答率が全国以下の設問から出題順に（※3ポイント以上の差がある問題）

問題番号・領域	問題の概要	出題の趣旨	留萌市正答率	全国正答率
1 三 (2) 話すこと・聞くこと	「インタビューの様子の一部」で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	69.5%	73.7%
◇◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◇ 自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめるためには、目的や意図に応じて、必要な材料を集め、分類したり関係付けたりして伝え合う内容を検討することが重要である。				
2 二 書くこと	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができかどうかをみる	75.8%	81.8%
○自分の考えが伝わるように文章を書くためには、引用したり、図表やグラフを用いたりするなど、書き表し方を工夫することが重要である。				
2 四 イ 言葉の特徴や使い方に関する事項	「ちらし」の下線部イを、漢字を使って書き直す (あつい日)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	60.0%	72.1%
○相手の読みやすさや意味の通りやすさを考えて漢字を正しく書くことが求められる。				
◇◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◇ 自分の考えが伝わるように書くためには、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、図表やグラフを用いるなどして、書き表し方を工夫することが重要である。その際、書く目的や意図を明確にした上で、詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合などを判断しながら書き表し方を工夫することが大切である。また、図表やグラフを用いる際には、自分にとっても考え深めやすく、相手にとってもよく理解できるものとなるよう書き表し方を工夫することも大切である。				
3 一 我が国の言語文化に関する事項	「資料1」を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる	72.6%	81.2%
○時代の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くためには、自分たちが普段使っている言葉とは異なる言葉があることや、それぞれの世代には特有の言葉遣いがあることに気付き、自分たちの言葉への関心を深めることが重要である。				
3 二 (2) 読むこと	「資料3」を読み、「木村さんのメモ」の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する	事実の感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる	40.0%	51.3%
○文章全体の構成を捉えて要旨を把握するためには、叙述を基に、書き手が、どのような事実を理由や事例として挙げているかなどに着目することが重要である。				

3 三 (1) 読むこと	「話し合いの様子」の田中さんの発言の空欄 A に当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	32.6%	40.8%
	○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けるためには、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要である。必要な情報は、目的に応じて変わるため、読む目的を明確にすることが大切である。			
3 三 (2) 読むこと	「資料 1」を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、「資料 2」、「資料 3」、「資料 4」に書かれていることを理由にしてまとめて書く	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	50.5%	56.3%
	○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けるためには、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要である。必要な情報は、目的に応じて変わるため、読む目的を明確にすることが大切である。			

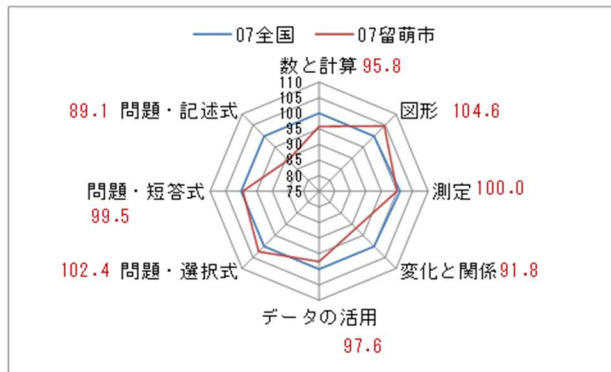
◇◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◇

文章全体の構成を捉えて趣旨を把握し、目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けるためには、読む目的を明確にすることが大切である。また、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることも重要である。その際、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにすることや、複数の資料を結び付けながら読むことが求められる。このようにして、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりすることは、自分の考えを形成することにもつながっていく。

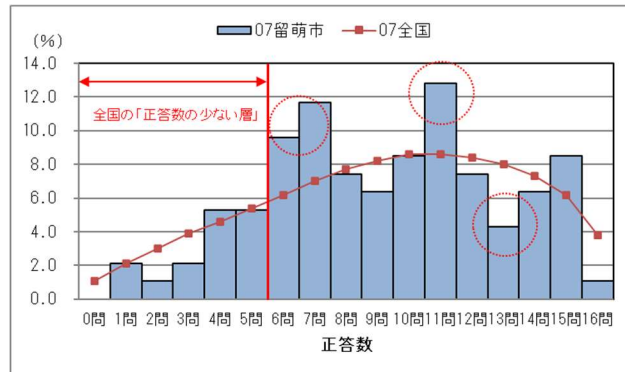
3 小学校算数

	平均正答数	平均正答率
留萌市	9.2問／16問	57.4%
北海道	8.8問／16問	55.2%
全国	9.3問／16問	58.0%

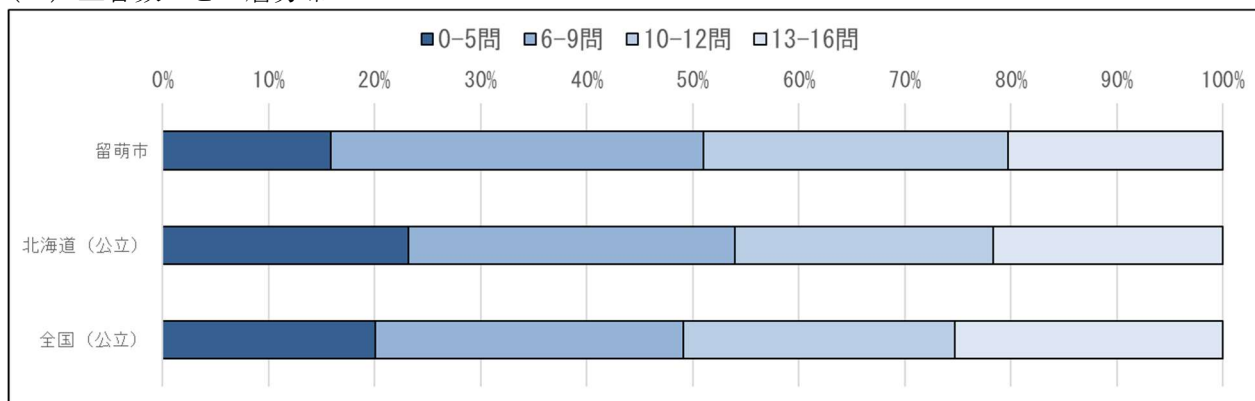
(1) 領域別の平均正答率～全国を100とする



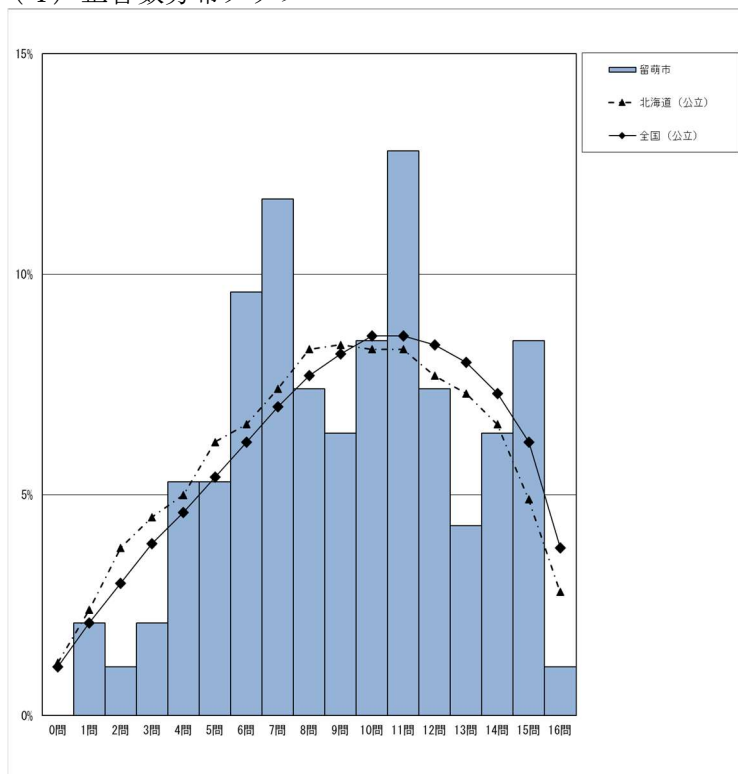
(2) 正答数分布グラフ



(3) 正答数ごとの層分布



(4) 正答数分布グラフ



(1) 領域別の平均正答率

- ◆「変化と関係」の領域で、全国と比べて相当低く、「図形」の領域で、全国と比べてやや高い。
- ◆短答式と選択式の問題は、全国と同程度で、記述式の問題は、全国と比べて相当低い。

(2) 正答数分布グラフ

- ◆16問中、正答数が6問と7問、11問の児童数の割合が、全国と比べてやや高く、13問の児童数の割合は全国と比べてやや低い。

(3) 正答数ごとの層分布

- ◆正答数が、6問～9問の児童数の割合は、全国と比べて高く、13問～16問の児童数の割合は、全国と比べて低い。

(4) 正答数分布グラフ

- ◆正答数が、6問と7問、11問の児童数の割合は、全国や北海道と比べてやや高く、13問の児童数の割合は、全国や北海道と比べてやや低い。

(5) 設問別の正答率の概要

※平均正答率が全国以下の設問から出題順に (※3ポイント以上の差がある問題)

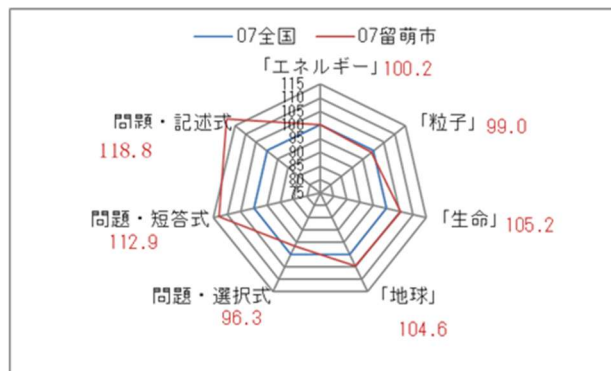
問題番号・領域	問題の概要	出題の趣旨	留萌市正答率	全国正答率
1 (1) 数と計算	2022年の全国のブロッコリーの出荷量が2002年の全国のブロッコリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる	74.5%	78.7%
	○グラフから、目的に応じてデータの特徴や傾向を捉えることができるようにすることが大切である。			
1 (3) データの活用	示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ	簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる	64.9%	71.6%
	○データの特徴や傾向から導いた結論について、表からの根拠となる数に着目できるようにすることが大切である。			
◆◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◆ 日常の事象について、目的に応じて、必要なデータを収集し、データの特徴や傾向を捉え考察するなど、統計的に問題を解決することが重要である。 そのために、例えば、日常の事象について、興味・関心や問題意識に基づき、必要なデータを収集し、棒グラフの項目間の関係を読み取ったり、目的に応じて適切なグラフを選択して考察したり、表から導いた結論の根拠となる数に着目したりすることができるようにすることが大切である。また、日常生活を振り返るために、示された資料から必要な情報を見いだすことができるようにすることも大切である。				
2 (1) 図形	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ	平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる	50.0%	58.3%
	○辺の長さや角の大きさ、辺の位置関係に着目して、図形の構成の仕方について考察できるようにすることが大切である。			
2 (4) 図形	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分解し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	28.7%	37.0%
	○図形を構成する要素などに着目して、基本図形の面積の求め方を基に、図形の面積の求め方を説明できるようにすることが大切である。			
◆◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◆ 図形の学習では、観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素とその関係に着目し、図形の性質や図形の構成の仕方、図形の計量について道筋を立てて考察することが重要である。 そのために、例えば、辺の長さや角の大きさ、辺の位置関係に着目して、図形の構成の仕方を考えたり、図形の性質を基に図形を弁別したりすることができるようにすることが大切である。また、図形を構成する要素などに着目して、基本図形の面積の求め方を基に、図形の面積の求め方を説明できるようにすることも大切である。				
3 (1) 数と計算	0.4 + 0.05について、整数の下方で考えときの共通する単位を書く	小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる	70.2%	74.1%
	○小数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、共通する単位を見いだすことで、整数の加法に帰着して考察できるようにすることが大切である。			
3 (2) 数と計算	3/4 + 2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	13.8%	23.0%
	○分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、共通する単位分数を見いだすことで、整数の加法に帰着して考察できるようにすることが大切である。			

3 (4) 数と計算	1 / 2 + 1 / 3 を計算する	異分母の分数の加法の計算 をすることができるかどう かをみる	73.4%	81.3%
	○分数の加法の計算をすることができるようにすることが大切である。			
◆◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◆ 算数の学習では、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を統合的・発展的に考察することが重要である。 そのために、例えば、小数や分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、共通する単位を見いだすことで、整数の加法に帰着して考察できるようにすることが大切である。また、分数の意味や表し方を理解したり、分数の加法の計算をしたりすることができるようにすることも大切である。				
4 (2) 数と計算 測定 変化と関係 データの活用	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	41.5%	48.7%
	○日常生活において、ある数量を調べようとするときに、それと関係のある数量を見いだし、それらの数量の関係を把握して、問題を解決できるようにすることが大切である。			
4 (4) 変化と関係	10%増量したつめかえ用のハンドソープの容量が、増量前の何倍かを選ぶ	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる	33.0%	40.9%
	○日常生活で、「10%増量」「30%引」などの百分率が用いられている場面において、倍を使って捉え直し表現できるようにすることが大切である。			
◆◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◆ 日常生活において、ある数量を調べようとするときに、それと関係のある数量を見いだし、それらの数量の間にある関係を把握して、問題解決に活用することが重要である。 そのために、例えば、ある数量が変化するとき、ほかの数量が変化するのかどうかを判断したり、ある数量が決まればほかの数量が決まるのかどうかを判断したりできるようにすることが大切である。また、「10%増量」「1割引」など割合の表現が用いられている場面において、それらの表現の意味を解釈することができるようにすることも大切である。				

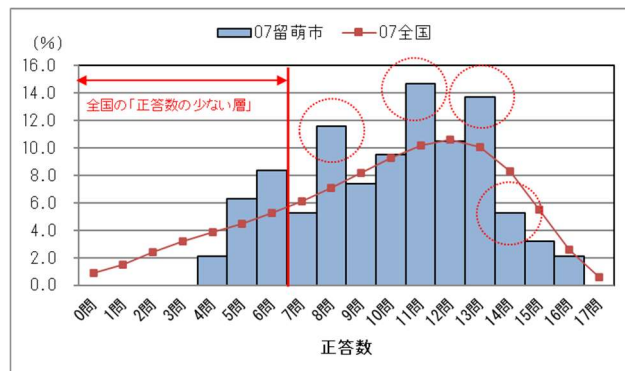
4 小学校理科

	平均正答数	平均正答率
留萌市	10.0問／17問	58.9%
北海道	9.6問／17問	56.3%
全国	9.7問／17問	57.1%

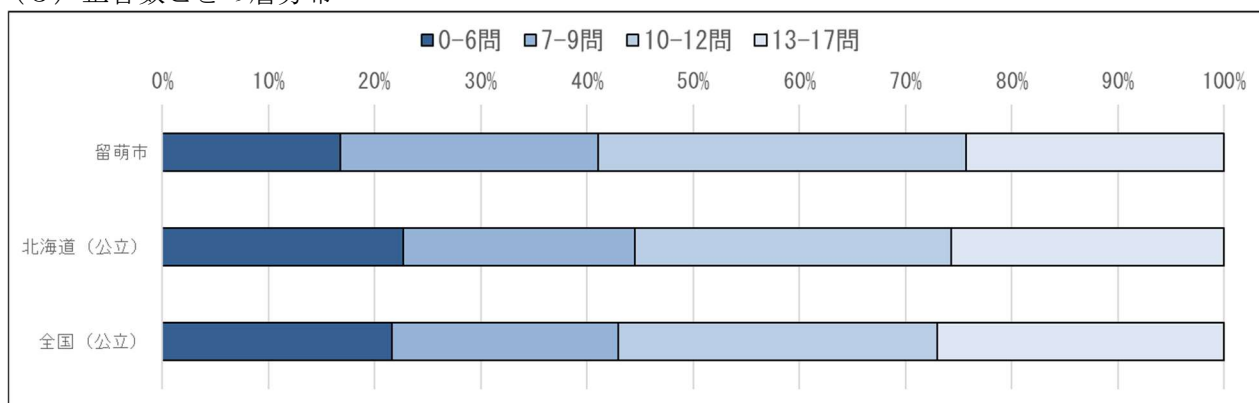
(1) 領域別の平均正答率～全国を100とする



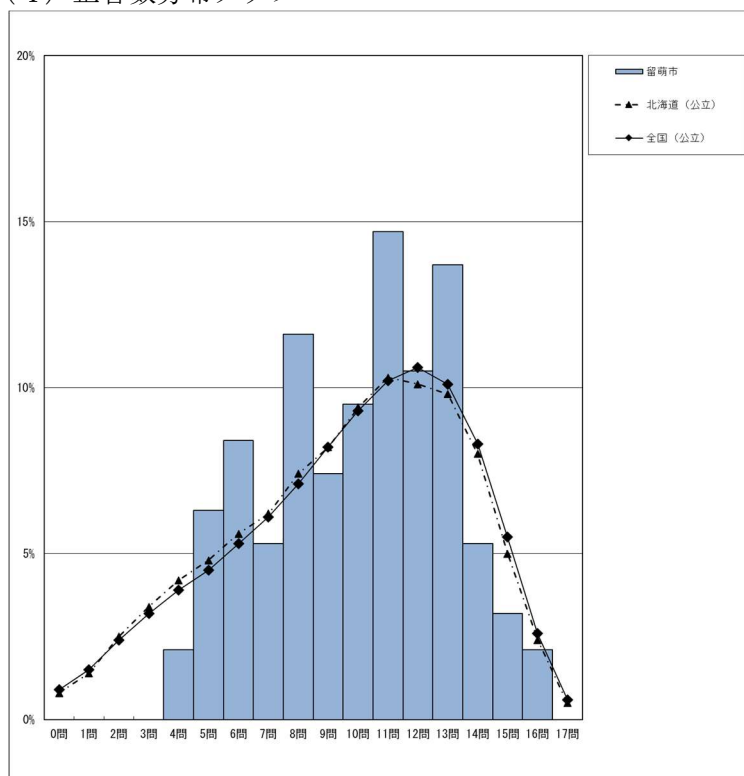
(2) 正答数分布グラフ



(3) 正答数ごとの層分布



(4) 正答数分布グラフ



(1) 領域別の平均正答率

- ◆「生命」を柱とする領域では、全国と比べて高い。
- ◆記述式と短答式の問題は、全国と比べて相当高く、選択式の問題は、全国と比べてやや低い。

(2) 正答数分布グラフ

- ◆17問中、正答数が6問と8問、11問、13問の児童数の割合が、全国と比べてやや高く、3問と14問の児童数の割合が、全国と比べてやや低い。

(3) 正答数ごとの層分布

- ◆正答数が、7問～12問の児童数の割合は、全国や北海道と比べて高く、0問～6問の児童数の割合は、全国と比べてやや低く、北海道と比べて低い。

(4) 正答数分布グラフ

- ◆正答数が、8問、11問、13問の児童数の割合は、全国や北海道と比べてやや高く、14問、15問の児童数の割合は、全国と比べてやや低い。

(5) 設問別の正答率の概要

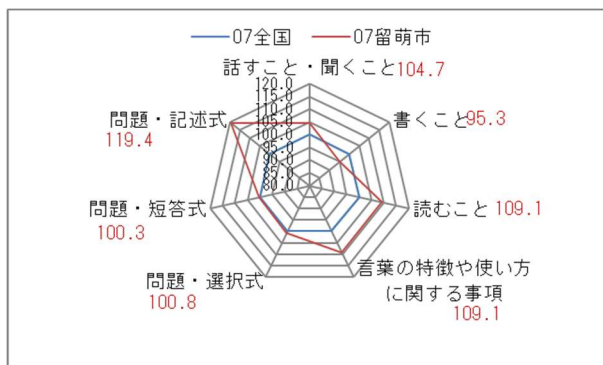
※平均正答率が全国以下の設問から出題順に (※3ポイント以上の差がある問題)

問題番号・領域	問題の概要	出題の趣旨	留萌市正答率	全国正答率
2 (4) エネルギー	乾電池2個のつなぎ方について、直列つなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	乾電池のつなぎに関する知識が見に付いているかどうかをみる	48.4%	55.1%
	○乾電池のつなぎ方について、直列つなぎ、並列つなぎの特徴を知識として身に付けることが求められる。そのため、ものづくりでできた装置を言葉や図に表現したり、言葉や図から装置を構成したりするなどして、理解を深めることの重要性について意識して授業を改善することが大切であると考えられる。			
3 (2) 生命	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる	41.1%	45.6%
	○適切な像にするための顕微鏡に関する操作の技能について、観察、実験において扱う器具や機器などを適切に操作する技能を身に付けることは大切である。そのため、適切な操作について理解するとともに、操作する体験を通して技能を身に付けることの重要性について、意識して授業を改善することが大切であると考えられる。			
3 (3) 生命	ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ	発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	55.8%	62.0%
	○ヘチマの種子の発芽について、発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した実験の方法を発想し、表現することが求められる。本設問にあるように、発芽に関する要因を挙げ、その要因を変える条件と変えない条件に区分しながら、予想や仮説を基に解決するための観察、実験の方法を計画することが大切である。そのため、変える条件と変えない条件を整理しながら解決の方法を考えることの重要性について、意識して授業を改善することが大切であると考えられる。			
4 (2) イ ウ 粒子 地球	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	58.9%	64.2%
	○水の蒸発や結露に関係する自然の事物・現象について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解することが求められる。そのため、自然の事物・現象と知識を関係付けたり、知識を相互に関連付けたりして、理解を深めることの重要性について意識して授業を改善することが大切であると考えられる。			
4 (3) カ 粒子	海にある氷がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ	水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる	53.7%	59.8%
	○学習した内容や児童の生活体験などを基に根拠のある予想や仮説を発想して、思考し判断することが求められる。そのため、習得した知識を他の学習や生活に関連付けて、知識を身に付けることの重要性を意識した授業を改善することが大切であると考えられる。			

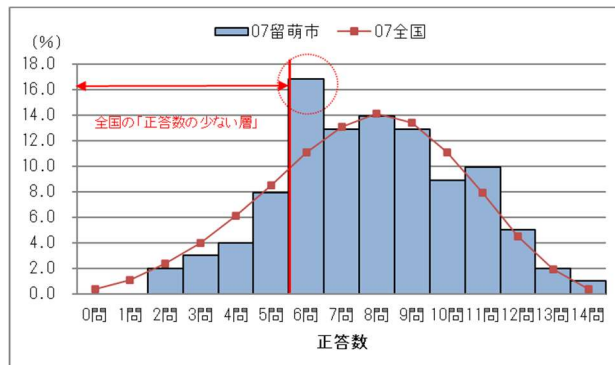
5 中学校国語

	平均正答数	平均正答率
留萌市	7.8問／14問	55.9%
北海道	7.6問／14問	54.0%
全国	7.6問／14問	54.3%

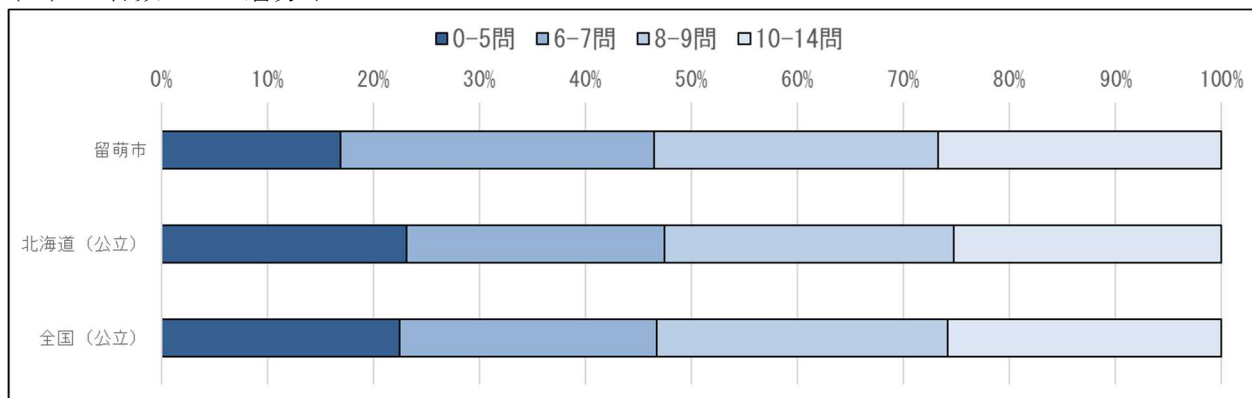
(1) 領域別の平均正答率～全国を100とする



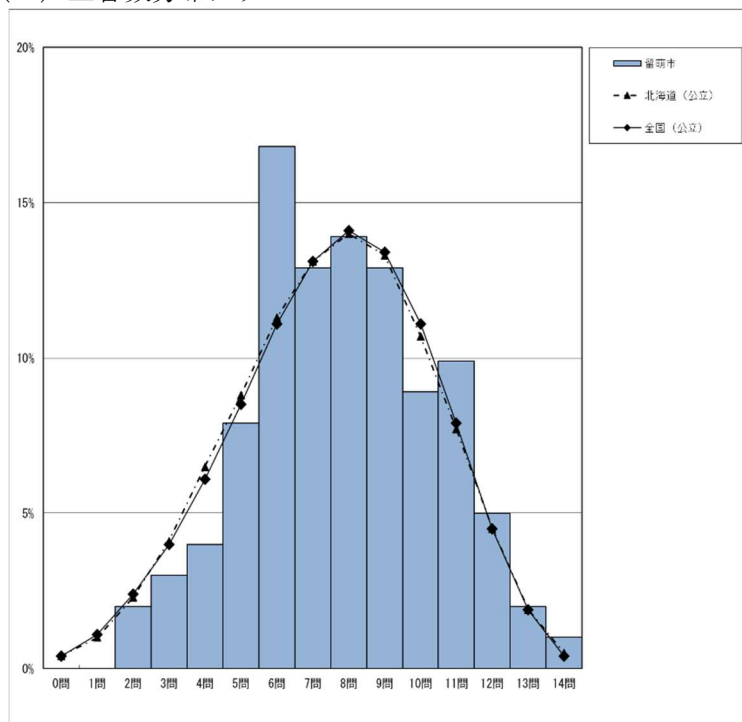
(2) 正答数分布グラフ



(3) 正答数ごとの層分布



(4) 正答数分布グラフ



(1) 領域別の平均正答率

◆「読むこと」の領域では、全国と比べて相当高く、「話すこと・聞くこと」の領域では、全国と比べてやや高い。

◆記述式の問題は、全国と比べて相当高く、短文式と選択式の問題は、全国と同程度である。

(2) 正答数分布グラフ

◆14問中、正答数が6問の生徒数の割合が、全国と比べて高い。

(3) 正答数ごとの層分布

◆正答数が、6問～7の生徒数の割合は、全国や北海道と比べて高く、8問～14問の生徒数の割合は、全国や北海道と同程度である。

(4) 正答数分布グラフ

◆正答数が、6問の生徒数の割合は、全国や北海道と比べて高い。

(5) 設問別の正答率の概要

※平均正答率が全国以下の設問から出題順に (※3ポイント以上の差がある問題)

問題番号・領域	問題の概要	出題の趣旨	留萌市正答率	全国正答率
1 一 言葉の特徴や 使い方に関する 事項	変換した漢字として適切な ものを選択する (かいしん)	文脈に即して漢字を正しく 使うことができるかどうか をみる	31.7%	35.2%
1 二 書くこと	ちらしに「会場図」を加えた 目的を説明したものとして 適切なものを選択する	目的に応じて、集めた材料 を整理し、伝えたいことを 明確にすることができるか どうかをみる	76.2%	82.5%
1 三 書くこと	ちらしの中の情報について、 示す位置を変えた意図を説 明したものとして適切なも のを選択する	書く内容の中心が明確にな るように、内容のまとまり を意識して文章の構成や展 開を考えることができるか どうかをみる	55.4%	63.3%

◆◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◆

「書くこと」の学習においては、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成、記述」、「推敲」、「共有」に関する各指導事項が示す資質・能力を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。指導計画の作成に当たっては、書くことに関する資質・能力が確実に育成できるように、実際に文章を書く活動を多くすることが必要である。指導の際には、〔知識及び技能〕の各指導事項との関連を図るとともに、生徒が日常の書く活動に生かすことを意識しながら学習できるようにすることが重要である。

実用的な文章を書く言語活動を設定する際には、他教科等の学習や学校の教育活動全体との関連を図り、実際に書いて伝えたり、読み手の反応を受け取ったりすることができるように工夫することが考えられる。行事等を案内する文章には、行事名、日時、場所、内容などのほか、参加してほしいといったお願いなど、必要な情報を漏れなく書く必要がある。その際、生徒が、相手や目的に応じて伝えるべき事柄を選択したり再構成したりして、簡潔に分かりやすく書くことができるように指導することが大切である。

4 一 書くこと	手紙の下書きを見直し、誤っ て書かれている漢字を見付 けて修正する	読み手の立場に立って、表 記を確かめて、文章を整え ることができるかどうかを みる	52.5%	57.3%
-------------	---	--	-------	-------

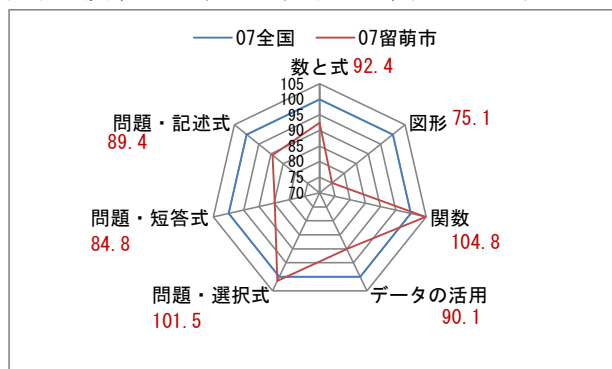
◆◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◆

「推敲」は、文章を書き上げる過程で、読み手の立場に立ち、自分が書いた文章について捉え直し、分かりやすい文章に整える行為である。中学校第1学年では、小学校での学習を踏まえ、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるようにすることが求められている。そうした推敲の仕方を身に付けた上で、第2学年では、表現の効果などを、第3学年では、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて文章を整えることができるようにすることが求められている。その際、文章を読み返す視点を明確にして、身に付けている知識や技能を生かしながら、よりよい文章に整えることができるように指導することが大切である。

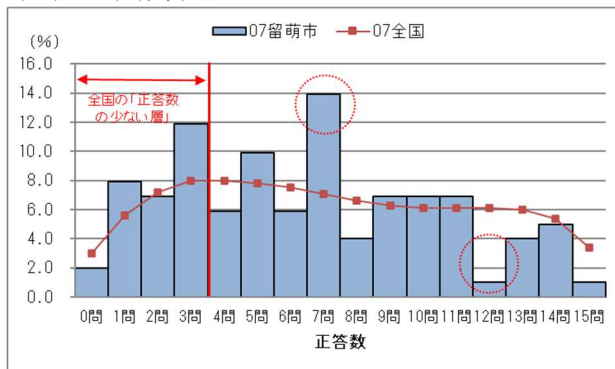
6 中学校数学

	平均正答数	平均正答率
留萌市	6.5問／15問	43.4%
北海道	7.0問／15問	46.7%
全国	7.2問／15問	48.3%

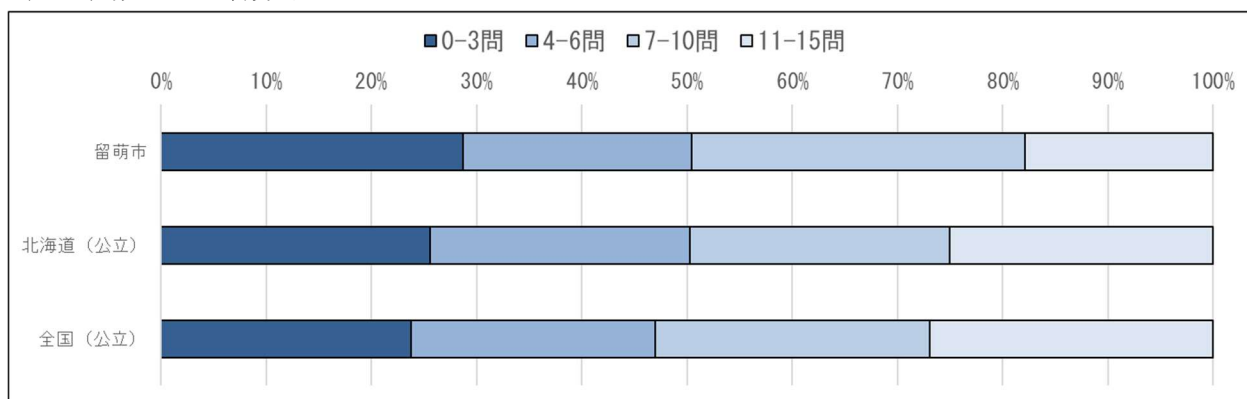
(1) 領域別の平均正答率～全国を100とする



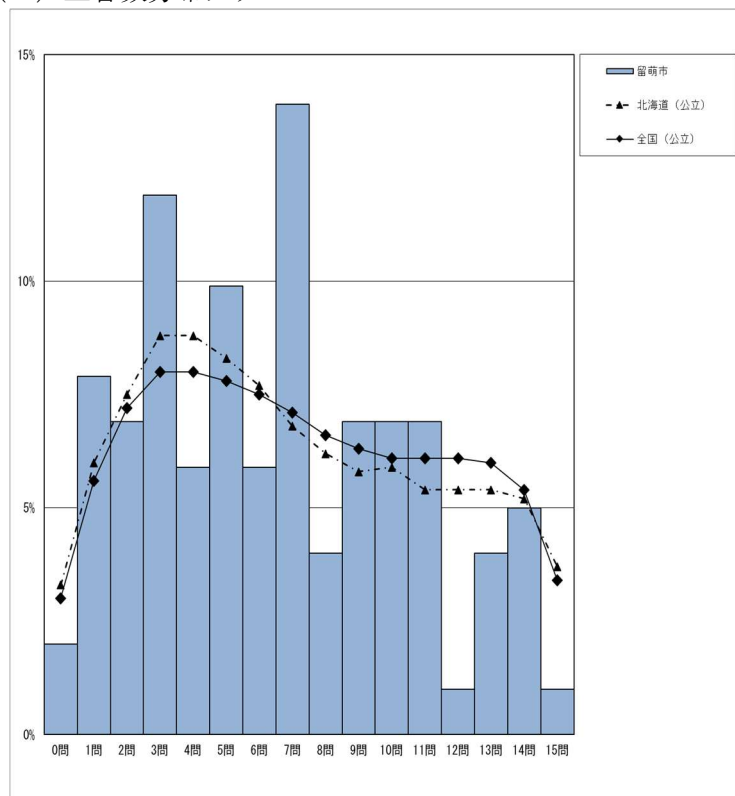
(2) 正答数分布グラフ



(3) 正答数ごとの層分布



(4) 正答数分布グラフ



(1) 領域別の平均正答率

- ◆「関数」の領域では、全国と比べてやや高く、「数と式」「図形」「データの活用」の領域では、全国と比べて相当低い。
- ◆記述式と短答式の問題は、全国と比べて相当低く、選択式の問題は、全国と比べて同程度である。

(2) 正答数分布グラフ

- ◆15問中、正答数が7問の生徒数の割合が、全国と比べて高く、12問の生徒数の割合が、全国と比べて低い。

(3) 正答数ごとの層分布

- ◆正答数が、7問～10問の生徒数の割合は、全国と比べて高く、11問～15問の生徒数の割合は、全国や北海道と比べて相当低い。

(4) 正答数分布グラフ

- ◆正答数が、7問以下の生徒数の割合は、全国と比べて相当高く、12問以上の生徒数の割合は、全国と比べて相当低い。

(5) 設問別の正答率の概要

※平均正答率が全国以下の設問から出題順に (※3ポイント以上の差がある問題)

問題番号・領域	問題の概要	出題の趣旨	留萌市正答率	全国正答率
3 図形	$\triangle ABC$ において、 $\angle A$ の大きさが 50° のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる	34.7%	58.1%
◆◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◆ 図形の性質を考察する場面では、辺や角などに着目し、図形の特徴を的確にとらえることが大切である。				
4 関数	一次関数 $y = 6x + 5$ について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる	29.7%	34.7%
◆◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◆ 関数を用いて事象を捉え考察する場面では、具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を見だし、表、式、グラフなどを活用して数学的に処理し、その特徴を捉えることが大切である。				
5 データの活用	ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める	相対度数の意味を理解しているかどうかをみる	27.7%	42.5%
◆◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◆ 不確定な事象についてデータに基づいて考察する場面では、度数分布表やヒストグラムなどを用いて、データの特徴や分布の傾向を読み取ることが大切である。				
6 (2) 数と式	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であることを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事情を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	12.9%	25.7%
6 (3) 数と式	連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事情が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	41.6%	45.2%
◆◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◆ 数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、予想した事柄が成り立つかどうかを判断し、成り立つ理由や成り立たない理由を数学的に説明すること、さらに、問題の条件を変えるなどして、総合的・発展的に考察することが大切である。				
7 (1) データの活用	Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く	必ず起こる事情の確立について理解しているかどうかをみる	74.3%	77.4%
◆◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◆ 不確定な事象を考察する場面では、多数回の試行によって得られる確率や、場合の数を基にして得られる確率を用いて事象の起こりやすさの傾向を捉え、それらを基に判断することが求められる場合がある。その際、判断の理由を数学的に説明することが大切である。				
9 (2) 図形	平行四辺形ABCDの辺BC、ADを延長した直線上に $BE = DF$ となる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する	総合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、照明を評価・改善することができるかどうかをみる	28.7%	36.3%

9 (3) 図形	平行四辺形 $ABCD$ の辺 BC 、 DA を延長した直線上に $BE = DF$ となる点 E 、 F を取り、辺 AB と線分 FC の交点を G 、辺 DC の線分 AE の交点を H としたとき、四角形 $AGCH$ が平行四辺形になることを証明する	ある事象が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	18.8%	33.2%
◇◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◇ 図形の性質を考察する場面では、予想した事柄が成り立つことを証明したり、条件を変えて共通する性質を見いだすなど総合的・発展的に考察したりすることや、問題解決の過程や結果を振り返って新たな性質を見いだすことが大切である。				

7 中学校理科

(1) 平均正答数集計値

【1】平均正答数集計値（全日程共通）

	生徒数	平均正答数
留萌市	102	3.0 / 6
北海道（公立）	33,370	3.0 / 6
全国（公立）	864,634	2.9 / 6

【2】～【9】平均正答数集計値（実施日別の問題）

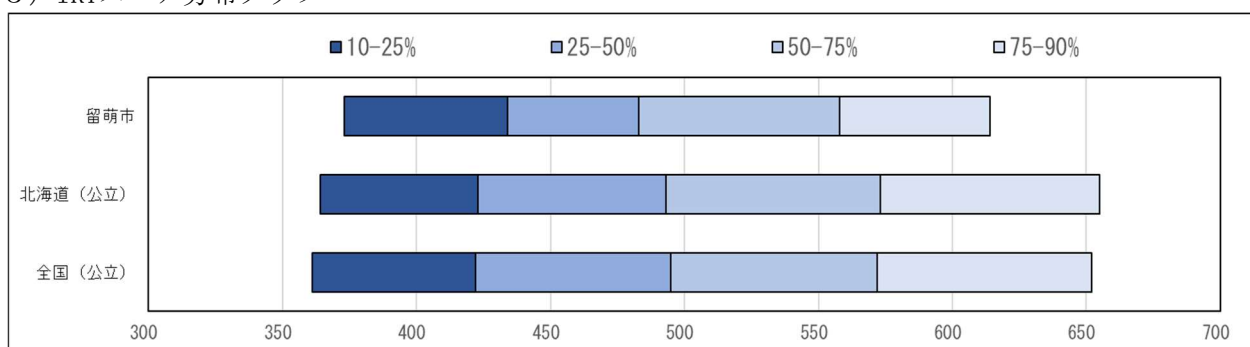
	【2】、【9】	【5】、【8】	【3】、【6】	【4】、【7】
留萌市	/ 4	2.0 / 4	/ 4	2.3 / 4
北海道（公立）	2.0 / 4	1.9 / 4	2.2 / 4	2.3 / 4
全国（公立）	2.0 / 4	1.9 / 4	2.3 / 4	2.3 / 4

※「空欄」…割り当てなし

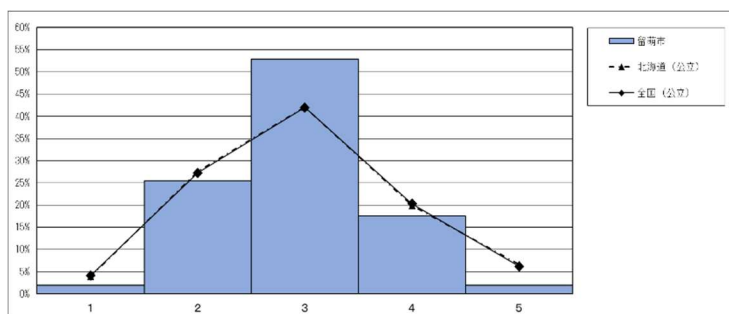
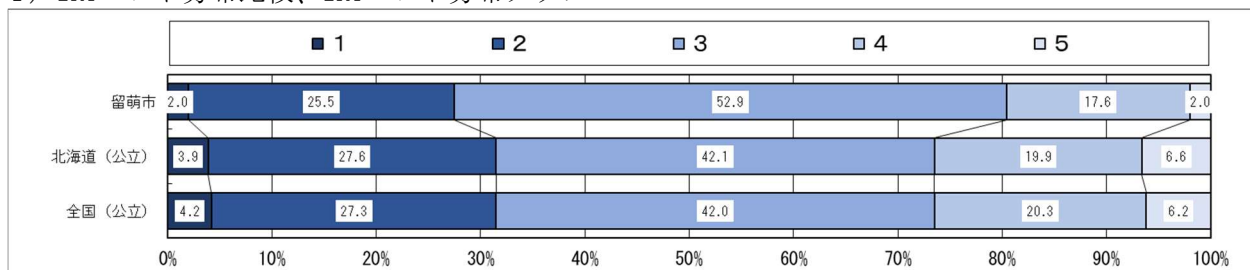
(2) IRTスコア集計値

	平均IRTスコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
留萌市	493	95.4	373	434	483	558	614
北海道（公立）	505	126.5	364	423	493	573	655
全国（公立）	503	124.0	361	422	495	572	652

(3) IRTスコア分布グラフ



(4) IRTバンド分布比較、IRTバンド分布グラフ



【パーセンタイル】

データ全体を小さい順に並べたときに、ある値が下から数えて何%の位置に相当するかを表す数値である。

【IRT バンド】

IRT スコアを1～5の5番階に区切ったもので、3が平均バンド、5が最も高いバンドである。

(1) 平均正答数集計

◆問題別の平均正答数集計値の平均正答数では、全国や北海道と同程度である。

(2) IRT スコア分布グラフ

◆10%の位置に相当する数値は、全国や北海道と比べて高い。

◆50%の位置に相当する数値は、全国や北海道と比べて低い。

◆90%の位置に相当する数値は、全国や北海道と比べて低い。

(3) IRT バンド分布比較、IRT バンド分布グラフ

◆IRT バンド3の割合では、全国や北海道と比べて相当高い。

◆IRT バンド5の割合では、全国や北海道と比べてやや低い。

(5) 設問別の正答率の概要

※平均正答率が全国以下の設問から出題順に (※3ポイント以上の差がある問題)

問題番号・領域	問題の概要	出題の趣旨	留萌市正答率	全国正答率
1 (1) エネルギー	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や早く水が温まる装置を選択する	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	42.2%	51.9%
1 (3) 地球	地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する	露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる	32.4%	36.2%
1 (4) 生命	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	24.5%	29.7%
◇◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◇ 理科では、科学的に探究する活動の見通しをもたせる上で、生徒が課題を設定して、探究したことをまとめ、振り返ることが大切である。その際、これまで学習した知識を活用し、身近な自然の事物・現象について「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」の領域を横断して多角的、総合的に捉え、思考することが大切である。 授業では、身近な自然の事物・現象から見いだした問題を解決するために自ら課題を設定し、多面的、総合的に探究することで、理科を学ぶことの意義や有用性の実感を高めることが大切である。				
5 (2) 粒子	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる	30.3%	35.6%
◇◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◇ 理科では、加熱を伴う観察、実験において、火傷をしたときの応急措置を生徒が理解していることが大切である。また、「粒子」を柱とする領域では、目に見える物質の性質や反応を、目に見えない粒子のモデルを用いるなどして微視的に事象を捉え、原子や分子のモデルで表現することが大切である。 授業では、観察、実験において火傷などの事故が起こらないよう十分留意するとともに、応急処置を事前に共有しておくことが大切である。また、微視的に事象を捉える際に、模型を用いるなどして目に見えない粒子をイメージしやすいように工夫することが考えられる。				
7 (1) 生命	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる	29.0%	34.8%
◇◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◇ 理科では、身に付けた理科の知識及び技能を身近な事象に関連付けて多面的、総合的に捉えることが大切である。 授業では、身近な事象を取り上げ、「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」を柱とする領域の知識及び技能をそれぞれ関連付けて、多面的、総合的に探究することが考えられる。				

Ⅲ 児童生徒質問紙調査結果の概要

1 授業改善

(1) 「5年生まで〔中：1・2年生のとき〕に受けた授業で、PCやタブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」

1 ほぼ毎日(1日に複数回の授業で活用)

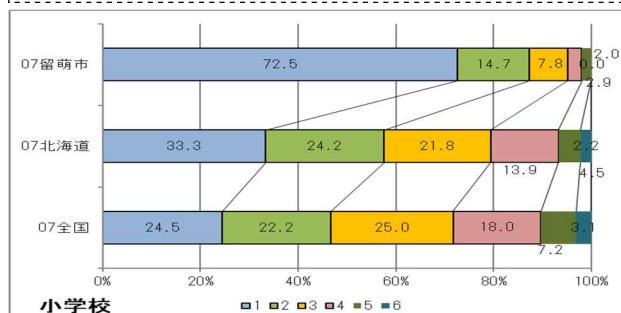
2 ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)

3 週に3回以上

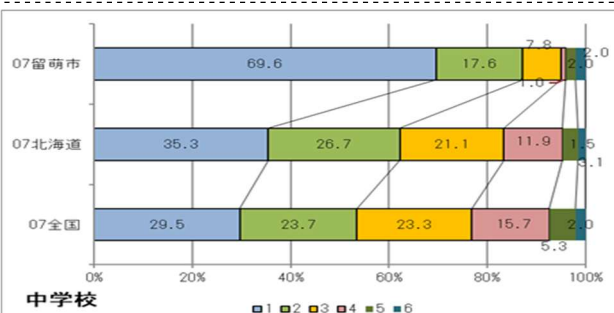
4 週に1回以上

5 月1回以上

6 月1回未満



「ほぼ毎日使用している」と回答した割合は、全国や全道と比べて相当高い。



「ほぼ毎日使用している」と回答した割合は、全国や全道と比べて相当高い。

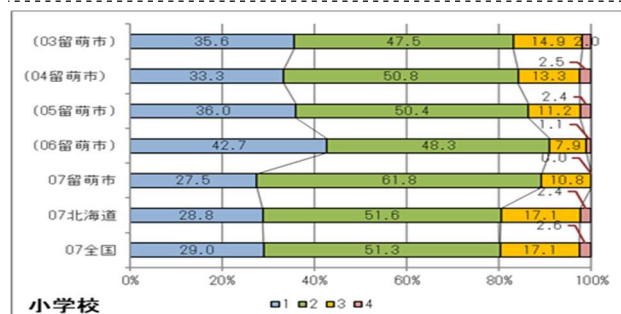
(2) 「5年生まで〔中：1・2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

1 当てはまる

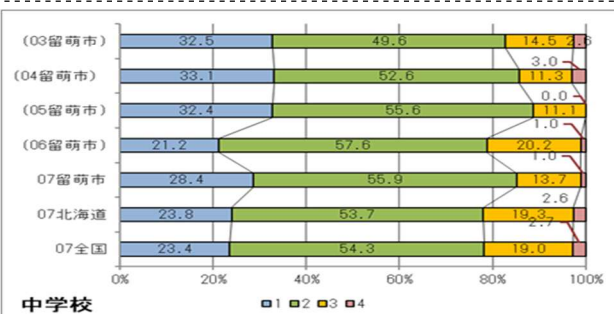
2 どちらかといえば、当てはまる

3 どちらかといえば、当てはまらない

4 当てはまらない



「当てはまる」と回答した割合は全国と比べて同程度で、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的回答の割合は相当高い。



「当てはまる」と回答した割合は全国と比べて高く、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的割合も高い。

(3) 「5年生まで〔中：1・2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していますか」

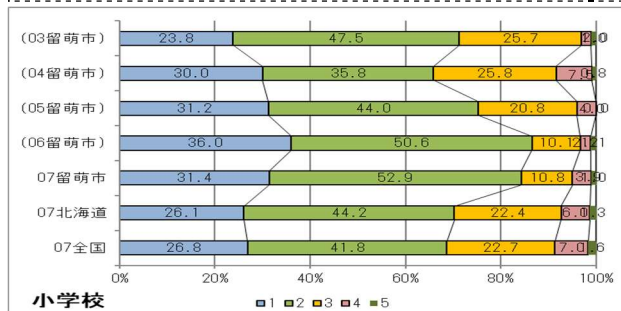
1 発表していた

2 どちらかといえば、発表していた

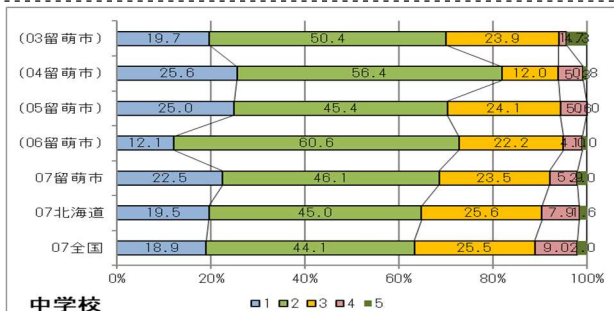
3 どちらかといえば、発表していなかった

4 発表していなかった

5 考えを発表する機会がなかった



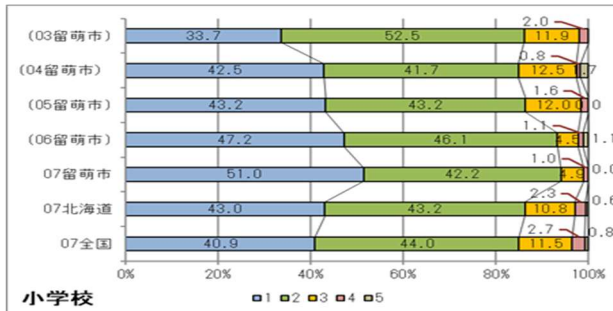
「発表していた」と回答した割合は全国と比べてやや高く、「どちらかといえば、発表していた」を含めた肯定的回答の割合は相当高い。



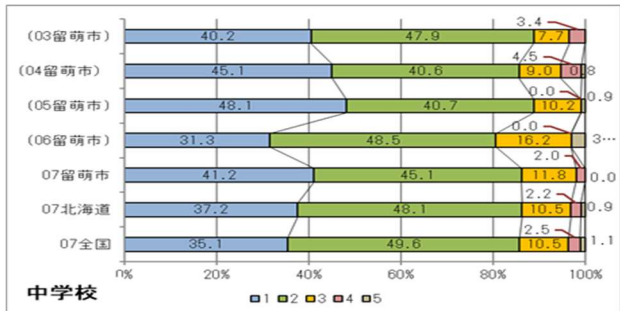
「発表していた」と回答した割合は全国と比べてやや高く、「どちらかといえば、発表していた」を含めた肯定的回答の割合は高い。

(4)「学級の友達〔中：生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 当てはまる | 2 どちらかといえば、当てはまる |
| 3 どちらかといえば、当てはまらない | 4 当てはまらない |
| 5 話し合う活動を行っていない | |



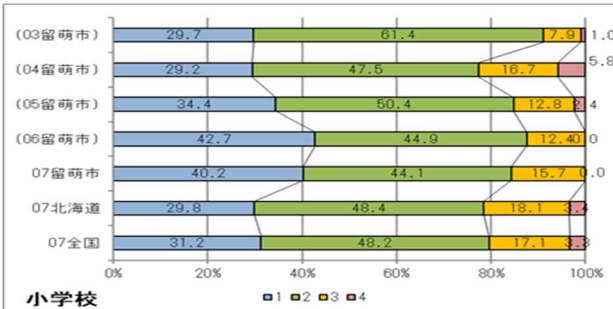
「当てはまる」と回答した割合は全国と比べて相当高く、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的回答の割合も相当高い。



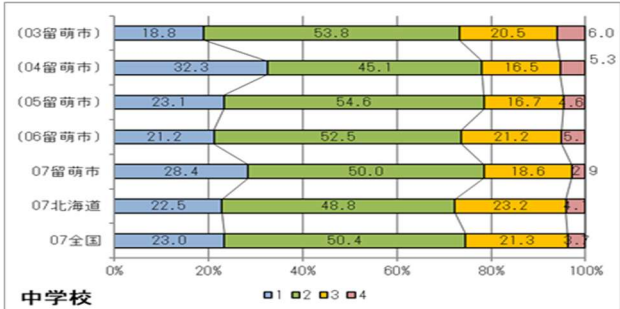
「当てはまる」と回答した割合は全国と比べて高く、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的割合は同程度である。

(5)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」

- | | |
|------------|------------|
| 1 よくしている | 2 ときどきしている |
| 3 あまりしていない | 4 全くしていない |



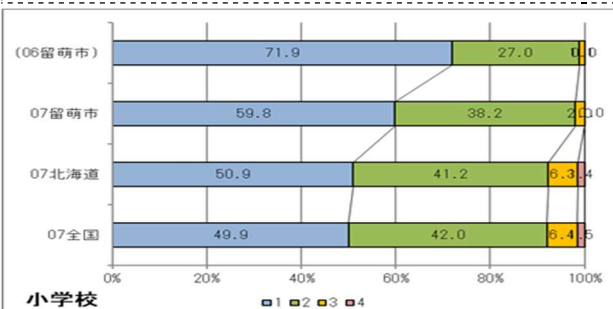
「よくしている」と回答した割合は全国と比べて相当高く、「ときどきしている」を含めた割合もやや高い。



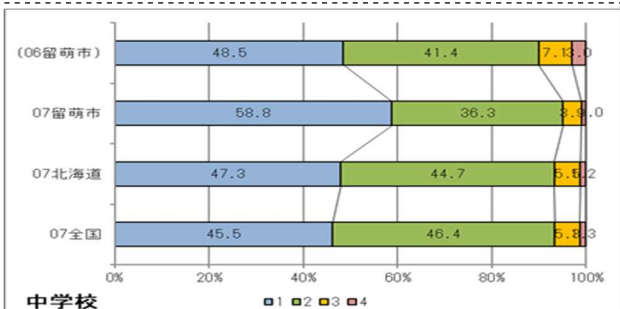
「よくしている」と回答した割合は全国と比べて高く、「ときどきしている」を含めた割合も高い。

(6)「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 当てはまる | 2 どちらかといえば、当てはまる |
| 3 どちらかといえば、当てはまらない | 4 当てはまらない |



「当てはまる」と回答した割合は全国と比べて相当高く、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な回答の割合は高い。

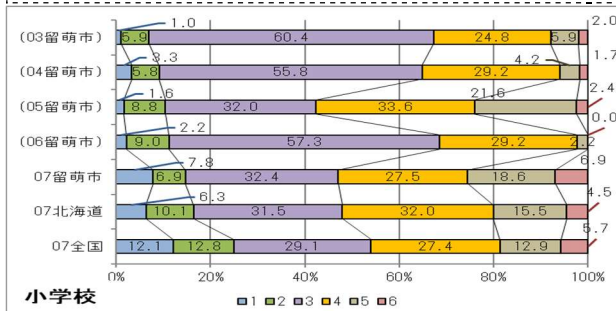


「よくしている」と回答した割合は全国と比べて高く、「ときどきしている」を含めた割合も高い。

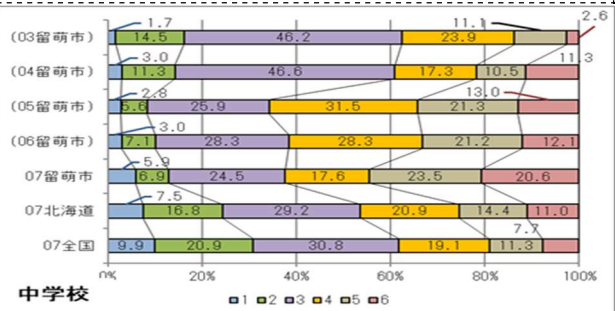
2 望ましい学習習慣の確立

(1)「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 3時間以上 | 2 2時間以上、3時間より少ない |
| 3 1時間以上、2時間より少ない | 4 30分以上、1時間より少ない |
| 5 30分より少ない | 6 全くしない |



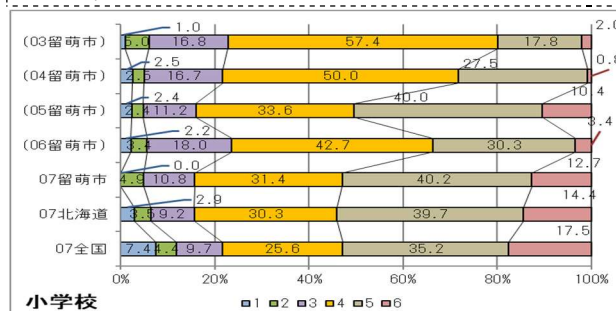
「1時間以上勉強している」と回答した割合は全国より低く、留萌市の令和3～7年度と比べて2番目に低い。



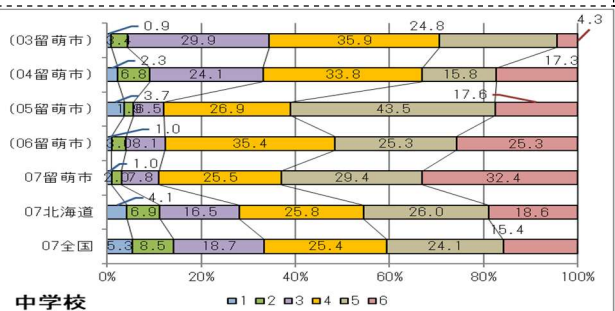
「1時間以上勉強している」と回答した割合は全国より相当低く、留萌市の令和3～7年度と比べて2番目に低い。

(2)「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 3時間以上 | 2 2時間以上、3時間より少ない |
| 3 1時間以上、2時間より少ない | 4 30分以上、1時間より少ない |
| 5 30分より少ない | 6 全くしない |



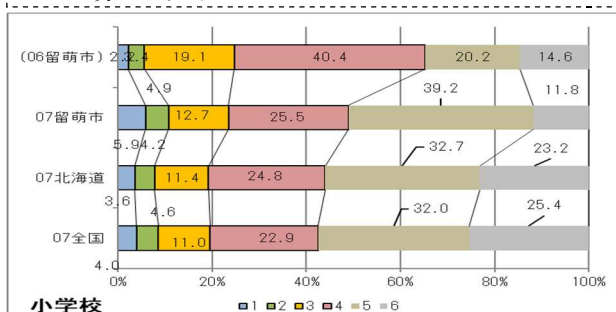
「1時間以上勉強している」と回答した割合は全国より低く、留萌市の令和3～7年度と比べて最も低い。



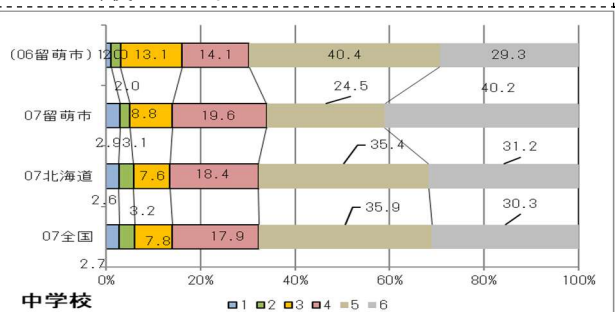
「1時間以上勉強している」と回答した割合は全国より相当低く、留萌市の令和3～7年度と比べて最も低い。

(3)「学校の授業以外で、普段(月～金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)」

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 3時間以上 | 2 2時間以上、3時間より少ない |
| 3 1時間以上、2時間より少ない | 4 30分以上、1時間より少ない |
| 5 30分より少ない | 6 全く使っていない |



「1時間以上勉強のために使っている」と回答した割合は、全国よりやや高い。

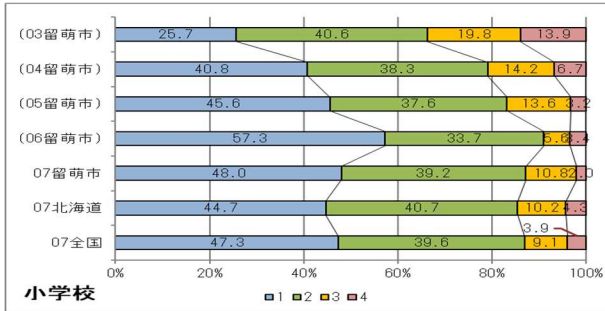


「1時間以上勉強のために使っている」と回答した割合は、全国と同程度である。

3 ウェルビーイングの向上

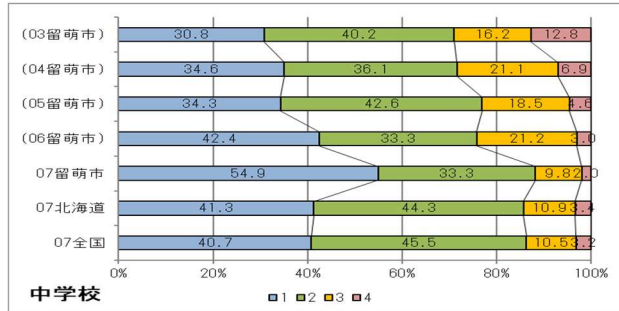
(1) 「自分には、よいところがあると思いますか」

- 1 当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない



「当てはまる」と回答した割合は全国と比べて相当高く、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な回答の割合は高い。

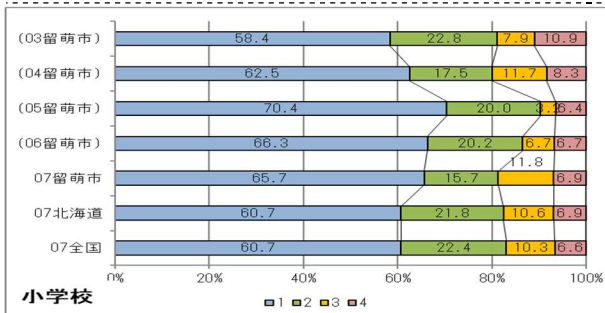
- 2 どちらかといえば、当てはまる
4 当てはまらない



「当てはまる」と回答した割合は全国と比べて相当高く、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な割合は同程度である。

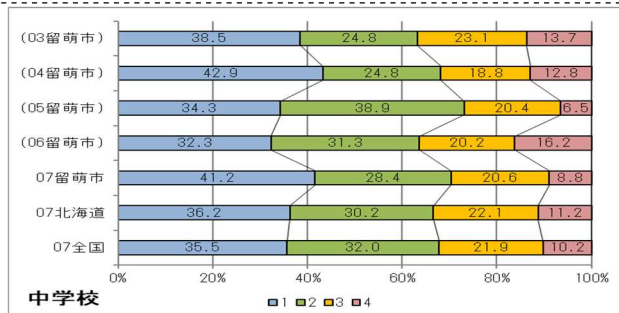
(2) 「将来の夢や目標をもっていますか」

- 1 当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない



「当てはまる」と回答した割合は全国と比べて高く、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な回答の割合は同程度である。

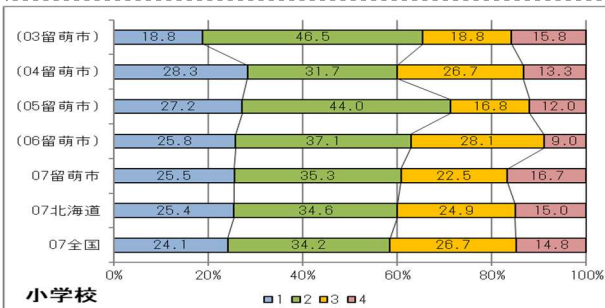
- 2 どちらかといえば、当てはまる
4 当てはまらない



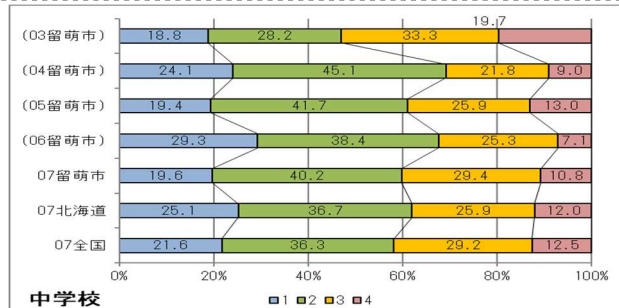
「当てはまる」と回答した割合は全国と比べて高く、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な割合は同程度である。

(3) 国語の勉強は好きですか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



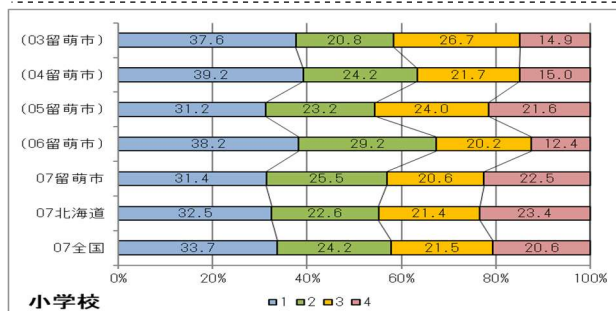
「当てはまる」と回答した割合は全国と同程度で、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な回答の割合も同程度である。



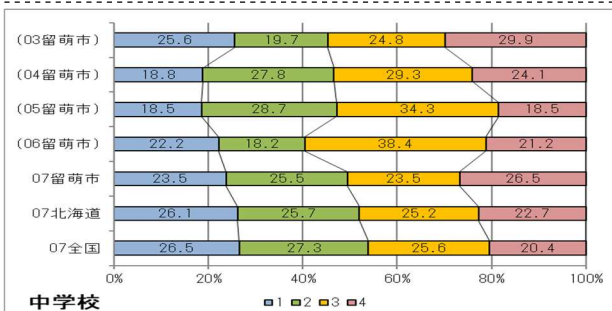
「当てはまる」と回答した割合は全国と同程度で、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な割合も同程度である。

(4) 算数(数学)の勉強は好きですか

選択肢は(3)と同様



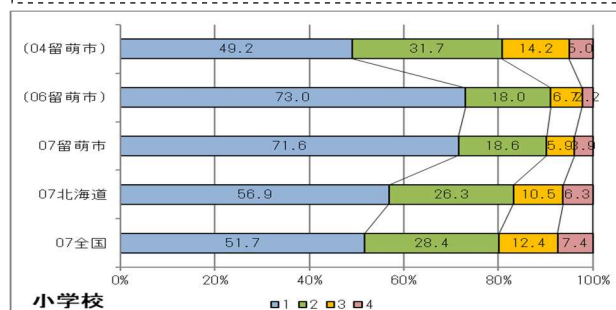
「当てはまる」と回答した割合は全国と同程度で、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な回答の割合も同程度である。



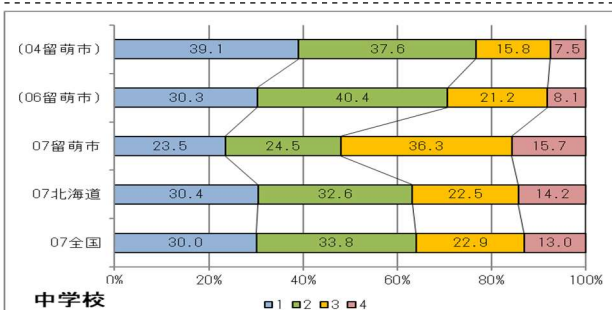
「当てはまる」と回答した割合は全国と比べてやや低く、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な割合もやや低い。

(5) 理科の授業の内容はよく分かりますか

選択肢は(3)と同様



「当てはまる」と回答した割合は全国と比べて相当高く、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な回答の割合も相当高い。

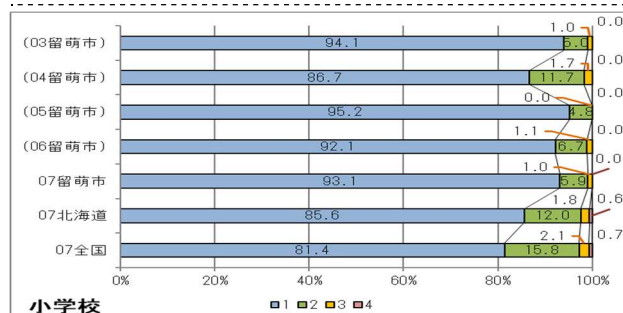


「当てはまる」と回答した割合は全国と比べて低く、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な割合は相当低い。

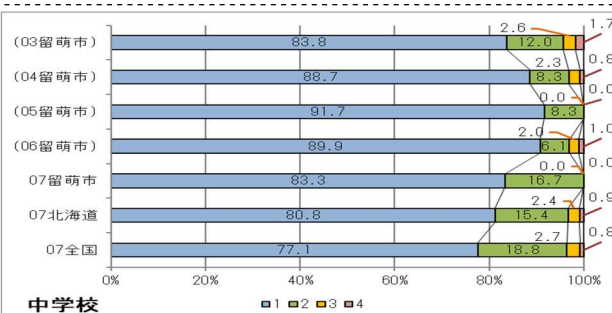
4 いじめ

(1) 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない



「当てはまる」と回答した割合は全国と比べて相当高く、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な回答の割合は同程度である。



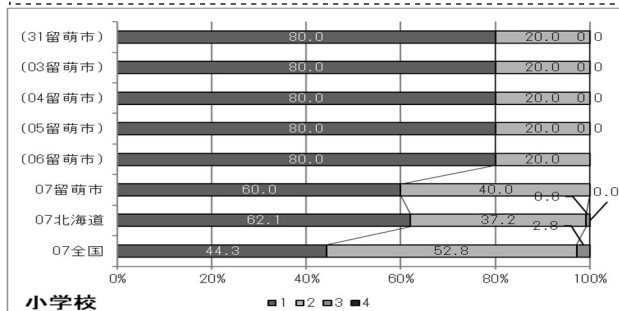
「当てはまる」と回答した割合は全国と比べて高く、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な割合は100%である。

IV 学校質問紙調査結果の概要

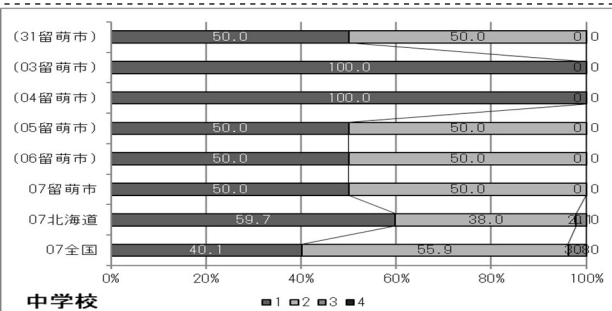
1 検証改善サイクル

- (1) 「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」

1 よくしている 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない



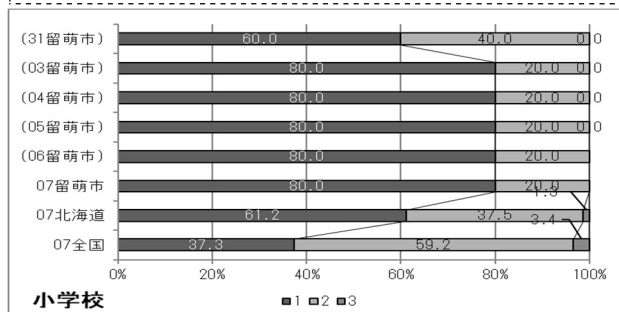
「よくしている」と回答した割合は全国と比べて相当高く、「どちらかといえば、している」を含めた肯定的な回答の割合は100%である。



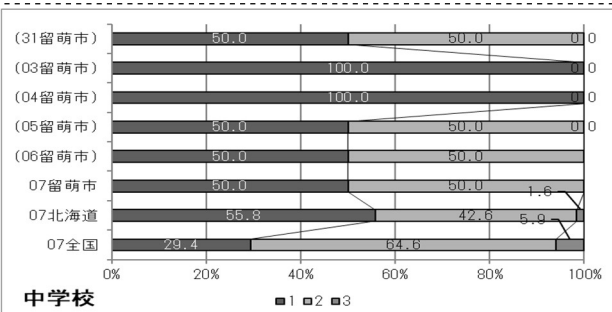
「よくしている」と回答した割合は全国と比べて相当高く、「どちらかといえば、している」を含めた肯定的な回答の割合は100%である。

- (2) 「前年度の全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」

1 よく行った 2 行った 3 ほとんど行わなかった 4 全く行わなかった



「よく行った」と回答した割合は全国と比べて相当高く、「行った」を含めた回答の割合は100%である。

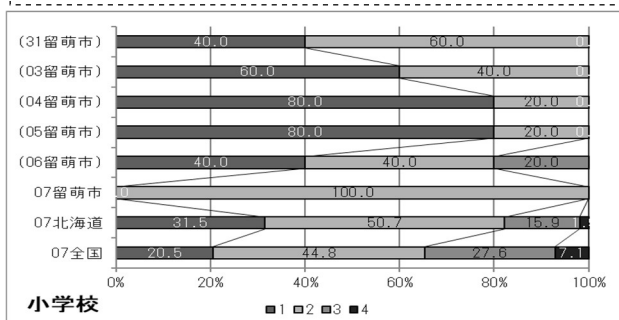


「よく行った」と回答した割合は全国と比べて相当高く、「行った」を含めた回答の割合は100%である。

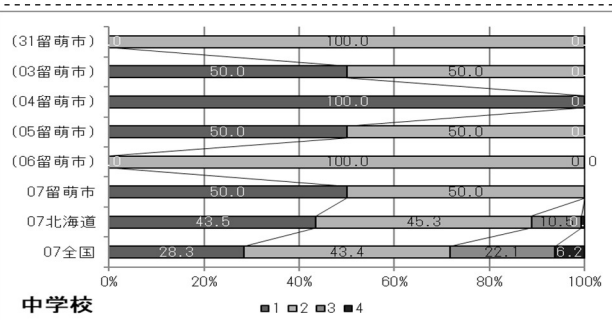
2 小中連携

- (1) 「前年度までに、近隣等の中学校〔中：小学校〕と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか」

1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行わなかった 4 全く行わなかった



「どちらかといえば、行った」を含めた肯定的な回答の割合は全国と比べて相当高く、100%である。

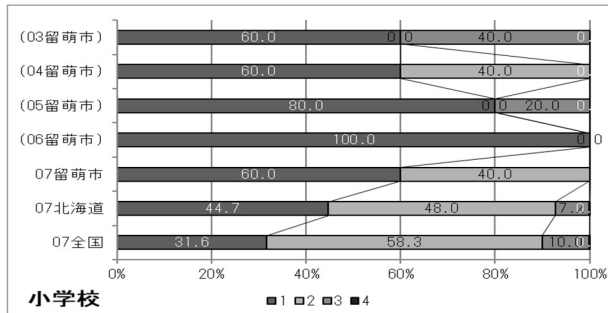


「よく行った」、「どちらかといえば、行った」を合わせた肯定的な回答の割合は全国と比べて相当高く、100%である。

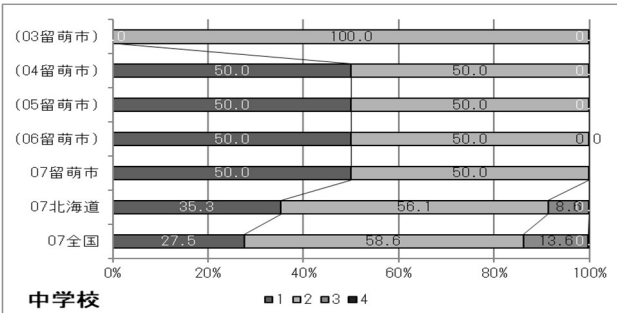
3 授業改善

- (1) 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」

1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行わなかった 4 全く行わなかった



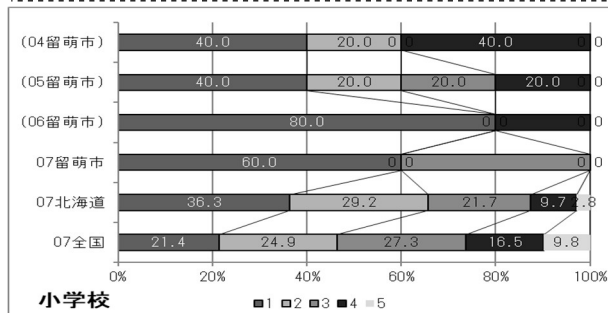
「よく行った」、「どちらかといえば、行った」を合わせた肯定的な回答の割合は全国と比べて相当高く、100%である。



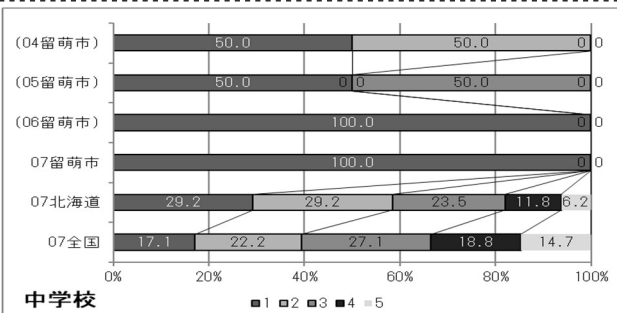
「よく行った」、「どちらかといえば、行った」を合わせた肯定的な回答の割合は全国と比べて相当高く、100%である。

- (2) 「調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用されていますか」

1 ほぼ毎日 2 週3回以上 3 週1回以上 4 月1回以上 5 月1回未満



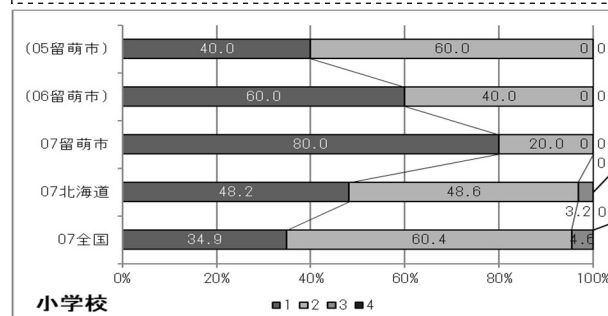
「ほぼ毎日」と回答した割合は全国と比べて相当高く、「ほぼ毎日、週3回以上、週1回以上」を合わせた割合は100%である。



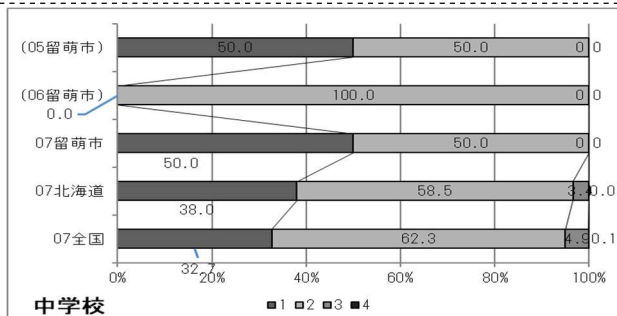
「ほぼ毎日」と回答の割合は全国と比べて相当高く、100%である。

- (3) 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか」

1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行わなかった 4 全く行わなかった



「よく行った」と回答した割合は全国と比べて相当高く、「どちらかといえば、行った」を含めた肯定的な割合は100%である。



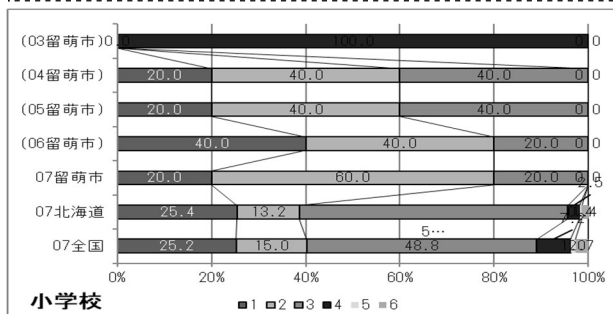
「よく行った」と回答した割合は全国と比べて相当高く、「どちらかといえば、行った」を含めた肯定的な割合は100%である。

4 望ましい学習習慣の確立

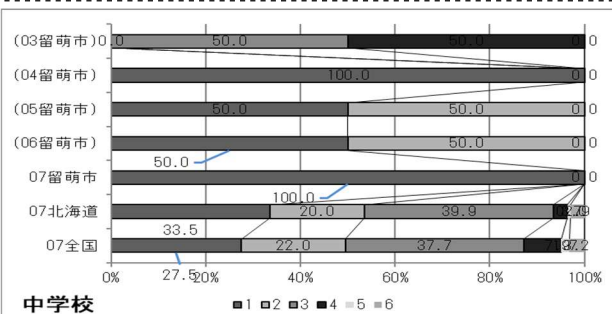
(1) 「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか」

- 1 毎日持ち帰って、毎日利用させている
- 3 時々持ち帰って、時々利用させている
- 5 持ち帰ってはいけないこととしている

- 2 毎日持ち帰って、時々利用させている
- 4 持ち帰らせていない
- 6 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている



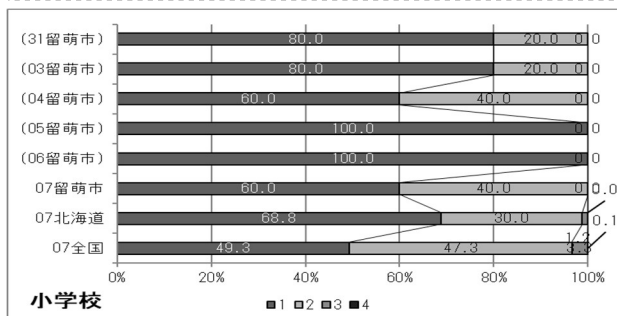
「持ち帰って、利用させている 1+2+3」と回答した割合は全国と比べて相当高く、100%である。



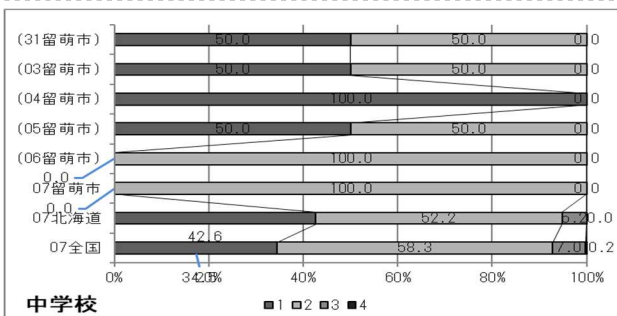
「毎日持ち帰って、毎日利用させている」と回答した割合は全国と比べて相当高く、100%である。

(2) 「調査対象学年の児童生徒に対して、昨年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか」

- 1 よく行った
- 2 どちらかといえば、行った
- 3 あまり行わなかった
- 4 全く行わなかった



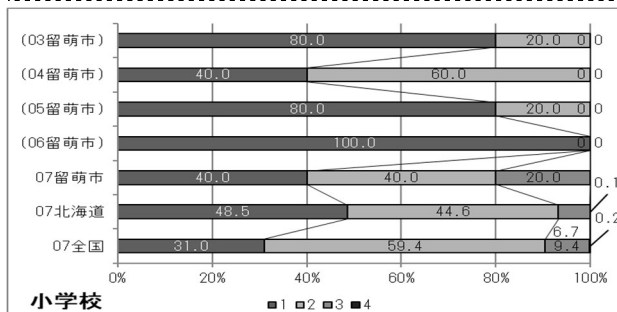
「よく行った」と回答した割合は全国と比べて相当高く、「どちらかといえば、行った」を含めた肯定的な回答の割合は100%である。



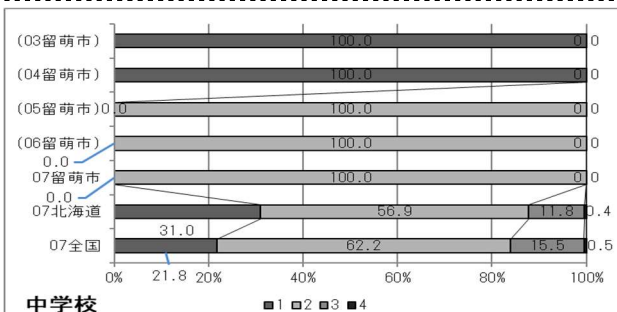
「どちらかといえば、行った」を含めた肯定的な割合は全国と比べて相当高く、100%である。

(3) 「調査対象学年の児童生徒に対して、昨年度までに、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしていますか」

- 1 よく行った
- 2 どちらかといえば、行った
- 3 あまり行わなかった
- 4 全く行わなかった



「よく行った」と回答した割合は全国と比べて相当高く、「どちらかといえば、行った」を含めた肯定的な回答の割合は相当低い。



「どちらかといえば、行った」を含めた肯定的な割合は全国と比べて相当高く、100%である。

Ⅳ おわりに

令和7年度全国学力・学習状況調査は、国語、算数・数学、理科が実施され、中学校理科については、ICT 端末を用いたオンライン方式での実施となりました。本書は、全国学力・学習状況調査の目的から、留萌市の児童生徒の学力・学習状況を把握・分析してまとめ、報告としたものです。報告書の作成に当たっては、調査の結果が学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを十分に踏まえた上で、留萌市の学力の全体的な傾向や児童生徒質問紙・学校質問紙調査から見える特徴的な状況等について記載しています。

各小中学校では、児童生徒の学力向上に向けて、「学校改善プランの立案と実行」「ウェルビーイングの実現に向けた教育活動の推進」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」「一人一台端末等のICT機器の効果的な活用等、指導方法の工夫改善」「小中学校の一層の連携」など、様々な取組を鋭意推進しています。特に、一人一台端末の効果的な活用に向けて、全校的な広がりを目指した研修と日常実践に精力を注いでいます。また、児童生徒一人一人に応じた学びの実現にも努め、学習効果の一層の高まりを目指したAI型教材「Qubena（キュービナ）」の効果的な活用、「EdvPath」の有効活用による児童生徒の安心・安全を目指した取組など、子どもを主語にした教育活動を展開しているところです。

今年度は、小学校の国語・算数が全国の平均正答率を下回り、小学校の理科は上回る結果となっています。また、中学校の数学・理科では、全国の平均正答率・平均IRTスコアを下回りましたが、中学校の国語は上回る結果となっています。児童生徒質問紙・学校質問紙調査の結果からは、学習内容の確実な定着のために、ICTの効果的活用を図りながら興味・関心をもたせる授業改善や、学校、家庭・地域の共通理解のもと、学習習慣を確立することができるよう家庭学習に関する取組を進めていくことが求められます。

こうした課題の解決に向けて、児童生徒が、主体的に学びに向き合う子どもを育てる教育活動を推進するとともに、小学校と中学校が連携し、9年間を見通して、学力向上と生徒指導の両面から目標を共有して指導に当たることが重要であると考えます。また、あらゆる環境が常に変化して複雑さを増した現代、新たな時代にふさわしい教育を構想し、着実な実践を積み上げていかなければなりません。

将来を担う児童生徒一人一人に「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手」を育むことが、学校教育に携わる者の責務と考えます。今後も、各小中学校と教育委員会において、「今、目の前にいる子どもたち」の課題を改めてしっかり分析し、学校・家庭・地域が連携協働しながら改善・解決に取り組んで参ります。